

「論文作成」のための特別講座

練習問題 6

あなたにとって、幸福を感じるのとはどんなことですか？

次の新聞記事を参考にして、自分の幸福と仕事の関係について作文してください。文字数は、400字以内とします。

（第3期新聞発表会）

毎 日 新 聞 2012年(平成24年)1月6日(金)

派遣社員から仕立屋を起業



3.11後の選択 4

「自分は生きている」。それなのに前に進むとしない自分が情けなくなってきた。悔しさと怒りがない交差になって泣き止み、思わぬ声を受けて泣いた。「明日があるとは限らない。今日から、自分のできることを精いっぱいやって

高校卒業後に上京してデザイン専門学校に入学した。東京はキラキラ光って見えた。24歳で本場、イタリアの専門学校に留学。世界各国から集まる学生としのぎを削った。第一線で活躍するプロ養成

1DKの自宅の扉間に机を置いただけの作業場から、カタ、カタとミシンの音が響く。指先の神経を縫い目に集中させる。デザイナーの高村幸さん(36)が、注文を受けて父子そろいのシャツを手作りする仕事を始めたのは、東日本大震災からわずか1月後だった。

◇ ◇

震災発生から1週間後の昨年3月18日。日本最大規模の地震と同じ時間に日暮里駅からJR山手線に乗った。車間ごと揺さぶられた神田駅に近づくと、恐怖とともに津波で一瞬たどって人の命が奪われた被災地の映像がよみがえった。

コースを修了し、30歳を前に帰国したが、思い描いた仕事はなかった。生計を立てるため、派遣の事務職として働いた。「次に切れるのは私か。不安定な生活を抜けてし、デザインの仕事をする決断ができていないまま、時は流れた。

シャツで包む家族愛

生きていく。流した涙が、決意させてくれた。

3カ月分の失業保険をつぎ込み、インターネットでシャツを販売する「父と子の店」を開設する。父と子の店を立ち上げた。そいひのシャツを増やしてもらい、親子の時間を増



父と子が触れ合う姿を思い、高村幸さんはミシンを踏む—東京都品川区で、尾崎章裕撮影

やす手伝いをしたいと思った。1カ月5着ほどの注文では生活はまかなえず、三つのアルバイトを掛け持ちしても月収は10万円減った。それでも、余りある店を感を得た。クリスマス。ネットで高村さんの思いを知った東京都の未政幹さん(36)は、夫と子供2人そいのシャツを約3万円で購入。30時間以上かけて仕立てられた3枚は値段以上の価値がある。夫はすぐに

◇ ◇

父と子のシャツをデザインする中で、わが父を思った。留学に遠征対しなぐも費用を援助してくれた。父はいつも見守っていてくれた。一歩を踏み出してやっとなつた。仕立屋を始める時、故郷の父に電話をかけた。「やりた

いことがあるんだら、やってみなさい」。不器用な父なりのエールが、自分を今も後押ししてくれている。

【鈴木梢】

「論文作成」のための特別講座 練習問題6 解説

資料読み取り型の論文問題である。

新聞記事の中からメッセージを読み取って、そのメッセージ(問題提起)に対して、自分の意見を説明することが求められている」論文問題である。

ただし、「自分の幸福と仕事の関係」について書くことが求められている。

- ① 書き方としては、標準的な「資料読みとり型小論文」の構成(段落構成)を使えばよい。

すなわち、公式は、

第1段 資料文からの「引用」

第2段 「問題提起」＋「判断」

第3段 「根拠」

第4段 「まとめ」(「判断」の反復＋「提案」) である。

次に、論文執筆のための要点を解説しておこう。

- ② プロットを書く際に、「論点」を「自問自答」する。これがしっかりできれば、ポイントが上がる。

- ③ 「新聞記事」が訴えるメッセージは、次のように読み取ることができる。

(ア) 一流になれなくても、有名になれなくても、幸福や生き甲斐を感じることができる。

(イ) 「生きている」それだけで幸福。

(ウ) 「明日があるとは限らない。今日から、自分のできることを精いっぱいやって生きて」いくことが幸福。

(エ) 自分の家族以外のだれかを守りたい(社会との関わり)。そんな思いを仕事で実行するときに幸福がある。その自分は、家族に支えられている。

(オ) 自分の学んできたことが、自分の思いを活かす力になる。

- ④ キーワードは何か

幸福 支え合い 生きる 東日本大震災 津波 復興 感謝
仕事 社会参加(仕事を通して社会に参加する) 家族 絆

「答案」を書くテクニック

第1段の「引用」の場面で、論じる対象を明確に示えること。すなわち、論じる対象は、新聞記事に取り上げられている人が幸福をどのように感じ、今を生きようとしているのか。そのメッセージについて「自分はどう受け止めるのか」を書くことが大切である。

その際には、③の(ア)～(エ)のいずれか、あるいは複数のメッセージを、記事内容から直接引用しなければならない。

第2段で、「問題提起」として、自分はどんな仕事を目指していたのか。その仕事で、どのような自分の幸福をつかもうとしていたのかを説明する。そのうえで、新聞記事のメッセージを受けて、自分の生き方や将来に目指す仕事のことについて新たに気づいた思いなどを説明する。

次に、新聞記事を読んだ今、自分が目指したい仕事の説明をする。

その際には、自分や自分の家族が社会とどう関わって生きたいのかを説明すること。そして、自分にとって、生きていくことと仕事との関係はどのようなものなのかを説明すること。

この新聞記事は、自分の家族以外の人への感謝が、社会参加の契機になり、生き甲斐や幸福を感じる大きな力になっていることを訴えているとも読める。その意味で、ここでは、自分の家族への感謝を述べるだけでは説得力がないことを注意しておくべきである。自分の家族も社会の支えで成り立っているからである。

第3段では、目指す仕事に就くために獲得しなければならない知識や技術の説明をする。その際、今の自分の力量と、目指す仕事に求められる力量・知識・技術との間の距離を説明し、自分の課題を超えていく道のりを明らかにできれば高い評価が与えられるであろう。

※ 採点基準

個人の「人生感」を採点することはできない。したがって、何を生き甲斐と感じるかなどの内容そのものを採点対象にはしない。

しかし、「課題設定力」と「表現力」及び「論理力」は、採点対象とすることができる。この問題の採点基準としては、次のような事柄が考えることができる。(10点満点として考えると次のような配点になる)

- ① 新聞記事が伝えるメッセージ(社会参加と幸福感)を説明している。(2点)
 - ② 仕事と幸福のつながりについて、記事を読む前と読んだ後での自分の考え方の変化などについて具体的に書いている。(2点)
 - ③ 今後、自分が克服しなければならない課題を説明している。(2点)
- 以上の①～③を書いていることと、指定の文字数で書いていることが最低条件である。次に、加算対象として、
- ④ 自分の目指す仕事について具体性がある。(2点)
 - ⑤ キーワードを効果的に使用して、説明している。(2点)
- これら以外に、論理矛盾は、減点対象とされるので要注意である。